

# 令和2年度第3回和歌山県医療対策協議会 議事録

【日時】令和2年12月1日（火）17:00～18:00

【場所】ホテルアバローム紀の国 4階 羽衣の間

## 【次第】

1. 開会・挨拶（和歌山県福祉保健部 野尻技監より挨拶）

2. 議題（※下記（1）～（4）のとおり進行）

（1）令和3年度の医師派遣方針について

（2）和歌山県キャリア形成プログラムの策定について

（3）専門研修の募集定員について（報告）

（4）その他

3. 閉会・挨拶（和歌山県福祉保健部 野尻技監より挨拶）

## 【議事】

[議題（1）令和3年度の医師派遣方針について]

（寺下会長）

それでは、早速議事に入りたい。委員の皆様方においては、円滑な議事進行にご協力いただきたい。

まずは、議題（1）令和3年度の医師派遣方針について、事務局から説明をお願いします。

（事務局 医務課 城谷主任）

令和3年度の医師派遣方針について説明（【資料1】関係）。

（寺下会長）

事務局より、令和3年度の医師派遣方針について説明があった。説明を受けて、各委員からご質問やご意見があればご発言をお願いします。

**(殿尾委員)**

那賀医療圏では、公立那賀病院はへき地医療拠点病院ではないが、この地域には鞆淵診療所というへき地診療所がある。

この診療所については、昨年度から紀の川市の委託を受けて当医療法人（三車会）が指定管理者により運営しているが、常勤医が60歳を超える方なので、今後を考えると派遣していただいてもいいのではないかと考えるが、いかがか。

**(事務局 医務課 山崎班長)**

毎年、へき地診療所を有する市町村に対して、派遣要望調査を実施している。

鞆淵診療所について、来年度指定管理がなくなり医師の派遣が必要という要望があれば、県として配置の検討をしていくことになる。

今年度の調査を実施したところ、鞆淵診療所（紀の川市）については派遣要望がなかったので、派遣対象にはなっていない。

**(中井委員)**

新宮市立医療センターへの自治医科大学の派遣がここ3年程ないのだが、来年度も自治医科大学の派遣は無理なのか。

**(事務局 医務課 山崎班長)**

我々としては、自治医科大学（自治医）と地域医療枠を特段区別して配置しているわけではなく、自治医・地域医療枠を含めて全体として検討している。自治医の上級生については、基本的にはへき地診療所へ重点的に配置することとしているため、その他の医療機関へ配置する数が少なくなる。

**(中井委員)**

自治医の医師がおられる期間は少なくとも2、3年が多いが、地域医療枠は非常に早く回転しているような気がするが。

**(地域医療支援センター 上野センター長)**

それはないと思う。自治医も地域医療枠も同じようにローテートしていて、先ほど山崎班長からもあったように、診療所に対しては、自治医の8年目・9年目を重点的に配置していくが、今年から一部地域医療枠も配置する形になるかと思う。

**(中井委員)**

新宮市立医療センターは6人ということで、人数的には多いが、異動される人がどれくらいいるのかは、まだ分からないのか。

**(事務局 医務課 山崎班長)**

本日の段階では、誰が残留する、異動するというのはお示しできない状況。現在、検討している段階である。

各医療機関からも、継続しての派遣は要望いただいている。我々としては派遣医師が全員交替するようなことのないように、できるだけ継続性を大事にしながら、配置案を検討していきたいと考えている。

**(尾崎委員)**

各医療機関が派遣要望を提出した時期は、確か10月頃であったと思う。

第3波が11月1日から始まったと、先ほど野尻技監からの挨拶にあったと思うが、現に11月に入ってから当院（ひだか病院）でもコロナ患者がたくさんあり、内科医の不足度が、当初要望したよりも更に増したのではないかと体感している。これは当院だけではなく、感染症を扱っている病院すべてに当てはまることだと思う。

当院も4名の要望を出しているが、それは体感として、最低4名をお願いしたいということ。これは恐らく他の病院も同じだと思う。

資料1の9ページにあるように、コロナウイルスに関わっている医療機関には配慮していただけるということなので、よろしく願います。

**(寺下会長)**

色々な立場で、非常に建設的なご意見をいただき感謝する。

事務局にあっては、只今いただいたご意見を勘案して政策を進めていただきたい。

それでは、資料1の9ページ、「令和3年度の医師派遣方針」（案）については、協議会として承認することとしてよろしいか。

<「異議無し」の声>

それでは事務局においては、この方針をもとに来年度の派遣計画を策定するようお願いする。

**[議題（2）和歌山県キャリア形成プログラムの策定について]**

**(寺下会長)**

議題2、和歌山県キャリア形成プログラムの策定について、事務局から説明

をお願いする。

**(事務局 医務課 城谷主任)**

和歌山県キャリア形成プログラムの策定について説明（【資料2、参考資料1】関係）。

**(寺下会長)**

事務局より、キャリア形成プログラムの策定について説明があった。説明を受けて、各委員からご質問やご意見があればご発言をお願いする。

**(駿田委員)**

専門性重視コースに関しては、イメージとして、地域枠の各医局に入局した方かと思う。先ほどの議題1にも関連するが、どこかの病院に偏らないための人数調整はこの会でコントロールできるのか。それとも各医局の意向や、医局と各病院とのやりとりの中では難しいか、教えていただきたい。

**(地域医療支援センター 上野センター長)**

大変重要な話。和医大の中に医師派遣の検討委員会があり、そこが各病院のニーズを酌み取って各医局に伝える、ということも考えられるが、現実的にはそこまで至ってない状況。

駿田委員がおっしゃる通り、医局の都合だけで人数割りをするのではなく、県や協議会の意見が通るようにしたいと思うが、現状は、まだ医局の都合で医師派遣という形になっている。しかし、駿田委員がおっしゃられたことは大変重要であり、そのようにしなければならないと思う。

**(中井委員)**

中堅クラスの医師派遣をお願いしているが、難しい状況が続いている。

医局の事情はあるのだろうが、医局が輩出した医師がその後どのように動くかということ、開業や他の大きな病院に就職する等、医局から離れてしまう状態だと思う。そこを何とか公的な病院に回していただけないかと意見しているが、難しい状況。

それを良い方向に向かわせるためには、例えば各科のOB会等からの働きかけもあるかと思う。一方で、個人の職業について口出しできないのも理解できるが、医局からの働きかけで公的医療機関に派遣していただかないと、若い人ばかりになってしまい、若手を指導する体制が作れなくなってしまう。

医局からは、指導する体制があれば下の人を出す用意はあると言われるが、それはまだ若い医局員しか育っていないという状況だと思う。

ではどうすればいいのか、新宮市立医療センターで言えば、和医大以外の、出身・母体が違うところから来ている部長のもとに入っただくことはできないかと言っている。

常勤で他から来てもらうのは難しいが、そういったことも行わないと、和医大の医局からの派遣では非常に難しい状況。それは、我々のところが一番遠いという地理的な条件もあるのだろうが。

専門医とまでは言わないが、キャリアのある少し上の人を派遣していただけるように、働きかけをお願いできればと思う。

次に産科であるが、現在当院では、産科医が、奈良県立医大と和医大から来ていただいている。奈良医大からの派遣が今後不透明な状況になっており、もし奈良医大が引き上げてしまうと、和医大から2人程度出せる用意があるのかという話になるが、それは無理で1人に限定したいという話も聞いている。

その際の対応に現在悩んでいるが、県の方でも、産婦人科医の派遣を考えていただきたいと思う。

#### **(地域医療支援センター 上野センター長)**

産婦人科は、今若い人が増えているが、トップと若い間の中堅が少ない状況と聞いている。

#### **(中井委員)**

次に病理で、これが大変苦勞している。

テレパソ (テレパソロジー、遠隔病理診断) で対応可能かと思っていたが、そんなに甘くない。各診療科の医師に加え、病理の医師がいないと、テレパソだけではやはり難しいので悩んでいる。

キャリア形成の話になるが、病理医はなぜいないのか。

#### **(地域医療支援センター 上野センター長)**

病理は昨年1名入局している。

#### **(中井委員)**

病理医を育てることは非常に大事だと思うので、そのような点も学生の時から話をしていただければと思う。

#### **(寺下会長)**

非常に大事なポイントだったと思う。中井委員には色々ご苦勞な話をさせていただくが、ここだけの話にせず、少しずつでも前に進むような施策を皆で考えていただきたいと思う。

**(事務局 医務課 今西課長)**

県の医療対策協議会について、少しおさらいさせていただく。

この協議会でご議論いただくのは、義務年限を課されている地域枠の方についてであり、義務年限期間中を上手く活用して、地域偏在を是正していこうというもの。

医局派遣の話に関連すると、議題1でご議論いただいた医師派遣方針を、本日ご承認いただいた。それに基づき、医師少数区域を中心に医師を派遣していくという計画をこれから策定する。

その計画については、県立医科大学も、十分尊重した上で医師派遣をしていただけるということで、この協議会にご参画いただいている。

医師派遣方針の説明の際、キャリア形成プログラムと整合性を取るという話があった。義務明けの医師がどれだけ県内の地域医療を担っている病院に残っていただけるかを考えたとき、9年間を無駄に過ごすのではなく、地域医療に従事しながらキャリアを積んで、義務が明けた後も地域の中核病院に残っていただいて、それぞれの不足している診療科で専門性を発揮してもらうことになる。そういった意味でも、義務期間中のキャリア形成プログラムは大変重要であると思っている。

**(寺下会長)**

全くその通りであるが、時間の都合もあるので次に進めたいと思う。

それでは事務局からご提示いただいている、和歌山県キャリア形成プログラム(案)については、協議会として承認することとしてよろしいか。

<「異議無し」の声>

それでは、事務局においては、このキャリア形成プログラム(案)で、策定の手続きを進めるようお願いする。

キャリア形成プログラムは、先ほどのお話でもあるように、適用される医師の将来に大きく影響を与えるもので、事務局においては、これからも地域医療の状況を踏まえ適宜見直しを行うようお願いしたい。

**[議題(3) 専門研修の募集定員について(報告)]**

**(寺下会長)**

議題3、専門研修の募集定員について、事務局から報告をお願いする。

**(事務局 医務課 仁木副主査)**

専門研修の募集定員について説明(【資料3】関係)。

(寺下会長)

ただいまの事務局からの報告について、各委員からのご質問ご意見はあるか。  
<特になし>

特にないので、次の議題に移りたい。

#### [議題(4) その他]

(寺下会長)

議題4のその他について、事務局からは特に報告等ないと伺っている。この際、各委員より何かご発言等あれば願います。

(宮下委員)

医師派遣方針あるいはキャリア形成についても、先ほど医務課長が申された通り、我々大学として今後も一層努力したいと思っている。中井委員からのご意見もあったが、県全体の医療、特に医師派遣や診療科の偏在も含めて、問題は十分意識している。各論的に、県全体の医療機関への均てん化も課題もあると承知している。

ご指摘のように、大学として、派遣は医局単位というのは、今のシステム下では大胆に変更することはできないまでも、県全体の医師等の需給に関しては、できる限り大学全体で情報共有し、また偏在解消について、県当局とも更に連携を深めて対応していきたい。

また、中堅医師の派遣についても、「くろしおプロジェクト」という、自治体病院が医師を迎えるのと同等の経費で、大学としても教員を確保できるというメリットを生かした制度があるが、こちらも一つの方法ではないかと思う。

いずれにしても、より地域医療を重視した形での大学運営に努めていく。

(寺下会長)

他にはないか。

<特になし>

本日予定していた議事は以上である。

以上